

(様式3)

事業所名 グループホーム さくらの里

作成日： 平成 23年 9月 22日

目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(1)	理念の共有と実践 事業所としての理念を作成するにあたって管理者と職員は、共通の意義として実践しているので経営者(設立者)は、これを組み取って、事業所としての理念を作り上げてほしい。	事業所(経営者)と、管理者と職員全員が、介護に対する気持ちがいつも同じである。	事業者が施設経営の介護に対する理念を作成し、職員全員に介護のモチベーションが上がるように示す。	3 ヶ月
2	5-2	虐待の防止と徹底 1ユニットのグループホームで職員も少数のためホーム内だけの介護になっている。 いつも介護の中で気付かないうちに介護の本質、正しく見極め気づきを感じられる。	外部研修や内部研修を月1回行う。 何が虐待なのか、どこから、どこまで虐待なのか、理解を深めて自分自身が気づきができる。	業務の中で、日勤勤務が仕事に支障が無いように、外部研修に出かけて、自分の気づきを人に伝えていく。管理者は積極的に講習に参加し、内部研修で職員に伝える。 何をしたら虐待に該当するのかを詳しくまとめたマニュアルを作成する。	12 ヶ月
3	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 家族が不安に思っている問題に耳を傾ける。	施設での重度化や終末期に向けた方針のしっかりお話しして、家族が不安に思っていることをお聞きし、解決に向けて取り組む。	今、現在のおひとりおひとりの状態を常時伝えていき、その都度、どうして行くか、明確な話をしていく、その時に往診医の意見も伝え相談してもらって、入居者様の医療体制の出来る場所を家族と一緒に考えていく。	3 ヶ月
4	12-2	急変や事故発生時の備え いざと言うときに行動が出来る。	急変時の対応や事故発生時に職員全員が、講習やマニュアルを深く理解して、的確に行動できる。	1年に1回は、職員全員に消防署の救命救急の講習を再確認を行う、管理者は外部研修や講習で習得した急変時や、事故発生時の対応の技術指導を職員に伝える。	12 ヶ月
5	(5)	身体拘束をしないケアの実践 解錠については時間に関係なく帰りたいと言う方が居られるため、玄関の開放は厳かしい。	帰りたいと言う方の気持ちに寄り添い、気持ちが落ち着かれたら、玄関の1時間から、開放を行うことが出来るように始めてみる。	帰りたいと言われる理由をじっくり話を聞く、ここは安心して居心地の良いところなんだと思って頂けるように対応する。気持ち安定が見られたら外に出て安全の確認が出来る状態に職員が見守る。	12 ヶ月